

国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

マクロコズム

2006.9 VOL.72



Contents

「国際青年育成交流」事業	2
ターニングポイント	6
知的障害者国際交流機構	9
第18回「世界青年の船」事業帰国報告会	10
国際理解教育支援プログラム	11
山形県青年国際交流機構の活動	12
福岡県青年国際交流機構の活動	13
中国派遣団同窓会	14
都道府県IYEO役員研修	16
全国大会(香川大会)	20

(財) 青少年国際交流推進センター

国際青年交流会議 International Youth Conference (7月6日)

「国際青年交流会議」は、皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して、平成6年度より始められた「国際青年育成交流」事業の一環として開催されるプログラムで、同事業に参加する日本派遣青年と外国招へい青年など約400名が一堂に会し、7月6日に開催されました。開会式の後、宮内庁式部職楽部にて雅楽を学ばれた雅楽師 東儀秀樹氏による「国際化時代における伝統文化～その継承と発展～」と題する基調講演があり、その後、基調講演のテーマに基づくグループ討論(分科会)が行われました。夜には皇太子殿下の行啓を賜り、レセプションが催されました。

招へい青年は、表敬訪問、都内視察、課題別視察などの「東京プログラム」、日本青年とのディスカッションを通じて国際理解を深める「討議セッション」、4府県(滋賀県、京都府、和歌山県、鳥取県)に分かれて、ホームステイなどを行う「地方プログラム」に参加し、7月5日からの21日間に及ぶプログラムを終了し、7月25日に帰国しました。



▲外国招へい青年と懇談される皇太子殿下



▲スピーチをするカンボジアのナショナル・リーダー



▲外国招へい青年と談笑する日本派遣青年



▲「^{しやう}笙」と呼ばれる雅楽の管楽器を手に講演をする東儀秀樹氏

基調講演

「国際化時代における伝統文化～その継承と発展～」

基調講演者:東儀秀樹氏(雅楽師)



▲講演を熱心に聴く参加青年



▲質疑応答で質問する日本派遣青年

分科会
(グループ討論)



▲討議を楽しむリトアニアの青年



▲分科会で和やかに意見を交換し合う参加青年



▲自国の文化を説明するモザンビークの青年



▲討議を楽しむミャンマーのナショナル・リーダー

Program [式次第]

- Opening ー開会ー
[11:30-11:40] 司 会: 佐藤 純子(外務省)
- ◆ Welcome speech by the Cabinet Office
内閣府代表者による挨拶
- Keynote Speech ー基調講演ー
[11:40-12:30] 司 会: 佐藤 純子(外務省)
- ◆ Keynote speaker: Mr. Hidaki Togi (Gagaku Musician)
Theme: Traditional Culture in the Global Age
～ From the Past to the Next Generation ～
講演者: 東儀 秀樹氏 (雅楽師)
テーマ: 「国際化時代における伝統文化 ～その継承と発展～」
- Group Discussion ーグループ討論(分科会)ー
[12:30-13:00]
- Theme: Traditional Culture in the Global Age
～ From the Past to the Next Generation ～
テーマ: 「国際化時代における伝統文化 ～その継承と発展～」
- Reception ーレセプションー
[13:30-20:00] 司 会: 佐藤 純子(外務省)
- 13:30 Opening remarks by the Minister of State of the Cabinet Office
内閣府代表者による挨拶
Report of the conference by the participating youth
参加青年代表による会議報告
Team (Parliamentary Secretary of the Cabinet Office)
内閣府代表者挨拶
- 15:50 Free talk ー雑談ー
- 20:00 Closing ー閉会ー

課題別視察（「討議セッション」関連プログラム）—7月10日—

外国招へい青年は、7月12日から（日本参加青年は7月11日から）始まる「討議セッション」に先立ち、6つの専門分野（企業の社会貢献、教育、環境、情報、伝統文化、ボランティア）に分かれて、それぞれ関連施設を訪問しました。

コース	訪問先
企業の社会貢献	社団法人経済同友会 アサヒビール株式会社神奈川工場
教育	国際協力プラザ
環境	市川市三番瀬
情報	ソフトバンク株式会社 日本テレコム株式会社
伝統文化	財団法人講道館
ボランティア	社会福祉法人めだかすとおりむ



国際協力プラザを訪問して、貿易ゲームを実施（教育コース）



アサヒビール株式会社神奈川工場にて山田隆司副工場長による講演（企業の社会貢献コース）



国際協力プラザにて記念撮影



社団法人経済同友会にて北城恪太郎代表幹事と共に記念撮影（企業の社会貢献コース）



漁船に乗って三番瀬へ（環境コース）



三番瀬での生物観察（環境コース）



日本テレコム株式会社の倉野充裕氏による社内見学（情報コース）



財団法人講道館にて柔道体験（伝統文化コース）



ソフトバンク株式会社にて田部康喜広報室室長による講演（情報コース）



財団法人 講道館図書資料部長村田直樹氏による柔道についての講演（伝統文化コース）



社会福祉法人めだかすとりいむでのハンドベル体験（ボランティアコース）

6 ターニングポイント



第12回「青年の船」参加青年 豊岡 正仁 さん 豊岡 陽子 さん

今回は、山梨県甲州市塩山にお住まいの豊岡さんご夫妻のお宅を訪問しました。豊岡家は5人家族で、ご夫妻は共に第12回「青年の船」（昭和53年（1978年）度）の参加青年、3人のお子様のうち、お二人が「世界青年の船」の既参加青年です。ご家族そろってこの事業に参加されることになったいきさつ、この事業が豊岡家にどんな影響を与えてきたか、また、難病の子どもとその付き添い家族の滞在施設を作る「ファミリーハウス運動」について話していただきました。

まず、陽子さんにお尋ねしますが、第12回「青年の船」に応募されたきっかけを教えてください。

私は大阪の出身なのですが、20歳の時に大阪府が主催する「大阪府青年洋上セミナー」に参加しました。これは大勢の20歳の青年が船に乗って1週間、北海道を訪問するプログラムなのですが、この事業を通じて、船旅の醍醐味を知ることになりました。その後、「青年の船」の募集があることを知人より教えてもらいました。当時は、海外へ行く人がまだまだ少ない時代でしたが、国の行う事業だから安心だろうと思って応募しました。

その頃、私は22歳で会社に勤めていました。事業に参加するために、会社に休暇を申請しましたが、残念ながら認められず、結局は退職して、23歳の時に乗船しました。

正仁さんはどのようなきっかけでこの事業に参加されたのですか。

地元山梨の新聞に「青年の船」参加者募集の10行ほどの小さな記事を見つけたのがきっかけです。当時、参加青年の年齢の上限が25歳まででしたが、私は既に28歳になっていました。どうしても参加したかった私は、渉外団員の枠で応募するしかありませんでした。山梨県で

の試験の際には、試験官から「山梨県からの応募者は、東京での最終選考で落とされてしまうことが多いのですが、いちかばちかやってみてください」と言って東京へ送り出されました。

お二人とも海外へ行かれるのはこの事業が初めてだったのですか。

陽子さん：海外はもちろんのこと、ひとりで東京へ行くのも初めてでした。新幹線に乗るのも初めてです。重いスーツケースを引きずって東京まで行ったんです。スーツケースなど宅配便で東京へ送っておけばよかったのしょうけれど、当時は、荷物を送っておくことも思いつかず、とにかく自分で持っていかなくてはという一心で、東京へ行った覚えがあります。

正仁さん：私は20歳の時に大学を1年間休学して、バックパックひとつで単身世界一周をしました。貨物船に乗ってマレーシアへ行き、そこから南回りで欧州へ渡り、シベリア鉄道で日本へ戻ってくるというルートです。お金がありませんでしたので、フィルム代にでもなればと、旅の様子をしたため、山梨日日新聞に寄稿し、連載記事として取り上げてもらっていました。この記事は、私の両親にとっては、私が無事に旅を続けているしるしになったようです。

当時、私はアフガニスタンという国が存在することすら知りませんでした。パキスタンからイランへ向かおうとしたら、どうしてもアフガニスタンを通さなくてはならず、その時初めてこの国の存在を知ったのです。アフガニスタンでは、気候が厳しいため、私は体調を崩してしまいましたが、隣の国イランで助けられ、幸いにも回復しました。中東にはバクシーシという貧しい人に施しをするという文化が根付いているのを痛感しました。助け合いの文化なんですね。

大学卒業後、ホテル勤務をしていましたが、もう一度新しいチャンスにかけたくなり、訪問国としてイランが含まれていた第12回「青年の船」に応募することにしました。



▲陽子さんが船内で所属していた「華道クラブ」の展示で、クウェート人の見学者を迎えて



▲パキスタンの「ホームエコノミー・カレッジ」を訪問

ところが、直前になってイランは訪問国からはずされてしまいました。残念でしたね。

事業中に印象的だった出来事について話していただけますか。

正仁さん：出発前に地元の皆さんに聞いていただいた社行会の時だったか、前年度の参加青年が自分たちが参加した時の8ミリフィルムを見せてくれたのですが、フィルムの中では、参加青年たちが泣いているのですね。なぜ泣くのだろうとその時は不思議に思ったのですが、自分も参加してその気持ちがよく分かるようになりました。口ではうまく説明できませんが、参加した者だけが理解できるこの事業が与えてくれる「感動」があるのでしょうか。

私は20歳の時に中東に行って既に十分ショックを受けていましたから、「青年の船」で再び中東を訪問した時にはさほど違和感はありませんでした。モノがないのが当たり前。そこにあるものを感謝して何でも食べる。この考え方が私の原点ですね。

陽子さん：訪問国活動でインドへ行きました。インドのYMCAを訪れた時に、私たちは船からお弁当を持って行ったのです。食べ切れなかったで、当然のように残したのですが、YMCAの人たちは、私たちの食べ残しを鍋に集めていたの

です。本当に食べるものがなかったのですね。

当時、私たちが訪問したのは貧しい国ばかりでしたね。クウェートだけは別でしたが、クウェートはお金持ちの国で、たいていのものを輸入していたようで、私たちがおみやげを買おうとしても、クウェート産のものがほとんどないのです。

クウェートでは、水族館を見学しました。ショックだったのは、世界地図が展示してあったのですが、その地図に日本がなかったことです。東の小さな国、日本はクウェートにとって当時はあまり重要ではなかったのでしょうか。

正仁さん：当時の事業は、交流というより、視察が中心でしたね。クウェートの大学では、サッカーの試合があり、皆で応援しました。ホームステイや、ホームビジットのプログラムもあったのですが、全員が参加できるわけではないので、管理部が選考していました。どういうことか、私たちは二人ともいつもその選考にもれていましたね。

「青年の船」に参加されたことは、その後の人生に影響を及ぼしましたか。

陽子さん：人生が変わりましたね。「青年の船」で夫と知り合い、私は山梨に嫁ぐことになりましたしね。夫とは同じ組でした。でも、事業中に一緒に撮った写真は1枚しかないんです。

第12回「青年の船」のスローガンは、「わたる海、ひろがる友情、われらの未来」^{せいがい}だったのですが、息子の名前「青海」はここから取りました。

正仁さん：この事業は、人を見る目を養うのに非常に役に立ちました。「人にはみなそれぞれ才能がある」ことに気づかされました。例えば、一見、おとなしそうなのですが、ゲームや討論をする場面で、

ずっと前に出て行って、その場を仕切り、皆をまとめてくれる団員がいました。その姿には、感銘さえ受けました。自分には何が足りないのかを熟考し、私も他の人を引きつけられるような人物になりたいと強く思いました。

船での経験を通じて、楽観的になったように思います。船が、ゆっくりであっても確実に前進していくように、どんなにゆっくりであっても、一歩一歩進んでいけばよいというプラス思考になりました。日々の生活も含め、あらゆる面で影響を受けています。この船の事業での経験は、私の中では必需品、なくてはならないものですよ。

息子さんも「世界青年の船」事業に参加されたそうですね。

正仁さん：私たちは二人とも「青年の船」の既参加青年なので、いつも家の中で船の話をしているものですから、子どもたちも「自分たちも大きくなったら船の事業に参加する」と思って成長したようなふしはありますね。

陽子さん：当時、長男は医学部の2年に在籍していて、「世界青年の船」（以下「世界船」）に参加するには実習を休まなくてはならず、大学側は、息子が「世界船」のプログラムに参加することに難色を示していました。でも、私は、医師になろうとしている若者にとって、「世界船」での経験は必要不可欠であり、必ず本人のためになると信じていましたから、なんとでも参加させ



▲モーニング・アセンブリの様子



「青年の船」事業中、正仁さんと陽子さんが一緒に写っている唯一の写真
(バキスタンのチャウナンディ遺跡にて)

たかったのです。将来、いろんな患者さんを扱うことになるわけですから、船の事業を通じて、いろんな世界を見てもらいたいと思っていました。ですから、息子に対して「もう一度だけ、先生にお願いしてごらん」と言って励ましたことが何度かありました。

正仁さん：その次に、次男が「世界船」に参加しようとしていた時には、大学の卒業試験と大学院の選考の日程が「世界船」の日程と重なっていました。私は、担当教官に理由を正直に説明して、事業への参加を認めてもらうように息子に勧め、息子は教官にお願いに行ったのですが、うまくいかなかったようです。どうしても認めてもらえないのなら、留年してもよいので、息子にはこの事業に参加してもらいたいと思っていました。

でも、当時、私は大学の父母会の役員をしていましたので、学部長とお話をさせていただく機会があり、この事業が、将来世界にとって有用な青年を育成するために大いに貢献している旨を伝えたとこ、最後には、快諾していただきました。

マクロコズム2004年5月号で豊岡さんが出された絵本について紹介させていただいたことがありましたね。

陽子さん：「やさしさの木の下で」という絵本です。次男が小学校1年の時に小児がんにかかっていることが分かり、子どもを失うかもしれないという恐怖で、息をするのも苦しく、何を見ても涙が出るという日々を過ごしました。でも、東京でつらい治療に耐えている子どもには、家族の支援が必要ですから、「青年の船」で学んだバイタリティを発揮して、私は山梨を出て東京でアパートを借り、看病することになりました。

正仁さん：長い闘いでした。当時は息子の病気の治療にすべてをかけていました。家族はばらばらになっていました。次男は東京の病院に入院しており、妻は付き添いで東京のアパート暮らし、私は山梨で残された2人の子どもの面倒をみるという有様でした。

陽子さん：2年ほど東京での生活を続けましたが、アパートの賃貸料の高さと、病院からアパートに戻ってきた時の寂しさを何とかしたくて、「遠方からの付き添い家族のための宿泊施設を作ろう」と運動を始めました。やがてこの運動は「ファミリーハウス」と呼ばれるようになり、賛同して下さる方が増えて、低料金で安心して泊まれる「家」が全国に広がっていきました。この経緯を「やさしさの木の下で」という絵本にまとめました。

正仁さん：「ファミリーハウス」を始めるときにも、「青年の船」で培った経験が生かされましたね。「青年の船」は組織作りの基礎を教えてくれたんです。どんな活動も個人の強い意志があれば始めることができます。自分の意見をはっきり述べていけば、やがて協力してくれる人が集まってきます。協力者を集める方法や、共同生活のルール作りは、「青年の船」で無意識のうちに学んでいたのです。

陽子さん：まず、行動を起こすことの大切さを「青年の船」で学びましたね。「とりあえずやってみよう」という考え方に感化されました。やってみれば何とかなるものですね。「青年の船」で学んだことは、生活のあらゆる面で応用が利くのだなと痛感しています。

絵本の紹介

「やさしさの木の下で」

文：くすもとみちこ(ペンネーム)

絵：うえだいずみ

協力：特定非営利活動法人ファミリーハウス
自由国民社 ¥1,600



インタビューを終えて

ご夫婦共に、「青年の船」での体験が、26年たった現在でも日常生活の一部となっている様子に感銘を受けました。取材後に案内されたご近所の桃農園では、第13回「青年の船」の参加青年である藤巻洋恵さんが、温かく迎えてくださいました。ご家族のみならず、ご近所のお友だちまでが内閣府(総理府)事業の参加者で、それぞれがこの事業に参加した思い出を大切なものとして語っておられる姿に心温まるものを感じました。

皆様の地域において 知的障害者国際交流事業を推進させてください



▲ハリキムヒロ市長を訪問

知的障害者はよく精神障害者と混同されがちですが、知的障害とは、一般的には金銭管理、読み書き計算など日常生活や学校生活の上で頭脳を使う知的行動に支障があると言われています。私たちはこの世の中で生き抜くために、他者との競争の中で「知恵」を使いますが、彼ら Challenged (チャレンジド) (諸外国での呼び方は隣人との平和を重んじ、他者への配慮を欠かしません。私たちを「健常者」と申しますが、精神的にはチャレンジドの方が豊かであり大人であり、またより優れた国際人でもあるのです。

ここ数年、わが国の知的障害者の福祉に関しては、知的障害者の自立が唱えられています。一方、諸外国に目を向けますと、米国では、チャレンジド本人の個性を伸ばすためのケアと、周囲の人々が彼らを支える仕組みができており、障害を持つ青少年がのびのびと生活しています。これと同じことを日本で実践するには、社会全体でチャレンジドを支える仕組みと、彼らの周りの方々のチャレンジドに対するマインドの向上が必要です。そのため、平成17年4月に日本の知的障害者親の会、養護学校の教師、知的障害者施設のジョブコーチ、米国の知的障害者親の会、ハワイ商工会議所等の方々と「特定非営利活動法人 知的障害者国際交流機構」を設立しました。

本年3月、「知的障害者施設国際交流派遣プログラム(団長:東京都育成会山本恵子理事)」と「知的障害養護学校国際交流派遣プログラム(団長:旭出養護学校大見川正治校長)」

第1回「東南アジア青年の船」事業参加青年
特定非営利活動法人知的障害者国際交流機構

関野 和彦

が実施されました。社会福祉法人読売光と愛の事業団からの助成金と、各企業からの協賛金を受けてのプログラムであり、全国の養護学校と全国の知的障害者施設から応募した海外渡航経験のない高校生と青年、その保護者、障害者特殊教育専攻の大学院生の計10名ずつが参加し、ハワイを訪問してホノルルのハワイ州庁舎での歓迎を受け、ハワイ島ではヒロ市長との懇談会を持ちました。また、一行はハワイ島ヒロ高等学校特殊学級、パホア高等学校特殊学級での日米合同授業に参加し、ARC(全米ネットの通所施設)、プナカマリ作業所(民間小規模作業所)を訪問してレイの制作、フラダンスの講習を受け、現地ハワイの関係者と交流を深めました。

今年度より、日本の福祉制度が変わり、その結果、チャレンジドの青年は、一か月の小遣いが1~2万円という厳しい生活を強いられることになりました。このような状況のチャレンジドの青年たちに飛躍の場と夢を与えるために、ぜひとも市・県の地域レベル、あるいは、国の国際交流事業の中に知的障害者事業を入れていただくべく皆様からのご支援を賜りたいと切に望みます。よろしく願い申し上げます。



▲パホア高等学校特殊学級での日米合同授業に参加

参加団員の体験報告は、以下をご覧ください。

当国際交流機構: <http://www.ifc-japan.org/>

全国知的障害者養護学校PTA連合会: <http://www.zenchipren.jp/>

東京都知的障害者育成会: <http://www.ikuseikai-ky.or.jp>

私どものハワイの研修施設もご利用いただけます。

第18回「世界青年の船」事業帰国報告会



トンガダンスを披露する

6月18日(日)、梅雨空の中、第18回「世界青年の船」事業帰国報告会が行われました。当日は小雨が降っていて、集客状況が心配されましたが、国内・海外からの第18回事業の既参加青年102人はもとより、約150人もの方々にご来場いただき、大成功の報告会となりました。

私たち報告会実行委員は、下船直後の3月上旬より、どうすればあの密度の濃い43日間の航海について伝えられるか考えてきました。その結果、「それぞれの旅、それぞれの挑戦、小さな地球がここにある」をテーマにすることにしました。参加者の思い、エピソードを中心に、それぞれが43日間の喜怒哀楽を通して

当日のスケジュール

- 12:30 開場
13:00 主催者/
実行委員長あいさつ
内閣府青年国際交流事業
の概要
- A部 (見せる型)**
13:20 スライド上映(全体概要)
13:35 劇「船の一日」
14:00 休憩
- B部 (伝える型)**
14:15 スピーチによる
エピソード発表
14:35 パネルディスカッション
14:55 休憩
- C部 (参加型)**
15:10 テーマ毎の参加型
ブース(分科会)
15:50 小グループによるQ&A
16:20 閉会のあいさつ

得た、出会い、発見、成長をありのままに伝えたいという思いで決めたテーマでした。

ただ、船の中では毎日会っていた118人の日本参加青年たちが、それぞれの生活に戻っていく中で、いかにコミュニケーションをしながら、全員を巻き込んで報告会を完成させるか苦労しました。しかし、オリンピックセンターに集まった時には、遠方からの参加にもかかわらず、しっかりと準備をしてきてくれ、本番に向け真剣に取り組んだおかげで、実行

第18回「世界青年の船」事業参加青年
事業帰国報告会実行委員長 得能 淳

委員たちの心配はよそに、素晴らしい団結力が見られました。

当日は、「見せる型」、「伝える型」、「参加型」の3部構成で報告会が行われました。

「見せる型」のスライドでは43日間の航海を訪問国活動中心にまとめました。前日のリハーサルでその映像を見ていたのにもかかわらず、懐かしさのあまり、既参加青年が涙を流すシーンもありました。私が招いた友人は、その涙を見て、それだけ心に残る43日間だったことを印象付けられたようです。劇では、スウェーデンから来日した既参加青年の一日を題材にし、ユーモアを交えて発表しました。

「伝える型」のスピーチでは、3人がそれぞれの船での体験で得た気付きや成長を熱く語りました。パネルディスカッションは司会を中心にテンポよく行われ、パネリストが随所にエピソードを語るなど、船での生活が頭に浮かんでくるようでした。

「参加型」では、来場者にブースを回って直接質問をぶつけてもらうと同時に、船でのメインプログラムであるコース・ディスカッションを体験できるブースも設けました。

当日は、約3時間半という時間の中で、私たちが43日間で感じたことを多くの人に伝えられるように努めました。「世界青年の船」という貴重な体験ができる、かけがえのない事業を、少しでも多くの未来の参加者に伝えられたなら幸いです。しかし、この事業報告会を通して得たものは、私たち18回参加青年の絆の再確認ではなかったのかと思います。下船から約3か月半、再び集結したことにより、お互いが事業を通して得たものを確かめ合い、仲間の大切さや力、互いの未来への可能性を多に感じる機会となりました。



参加青年代表のエピソード発表

末筆ながら、この事業報告会を支えてくださった内閣府そして(財)青少年国際交流推進センターの方々へ心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

「国際理解教育支援プログラム」

マクロコズム2006年5月号(vol.70)でもお伝えした通り、(財)青少年国際交流推進センターでは、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校に派遣する「国際理解教育支援プログラム」を平成16年度より実施しています。

本年度第2回目となるプログラムが7月21日(金)、東京都新宿区のKTC東京キャンパス中央プラッツ高等学院で実施され、第14回「世界青年の船」事業参加青年アハメド・キャメル・セディク・アハメドさん(エジプト)が講師として派遣されました。

授業は「グローバルセンス」科目の時間を利用して行われ、テーマは「古代文明と神秘の国『エジプト』」。授業内容は、エジプトの概要にはじまり、講師が持参したエジプトの硬貨やお札を見たり、ミイラの作り方、ミニ・アラビア語のレッスンを楽しんだりしました。自分の名前をアラビア語で書いてもらった生徒たちは、見慣れない文字で書かれた自分の名前を興味深く眺めていました。授業の中盤では、ドライナツメヤシとハイビスカス・ジュースがふるまわれ、和やかな雰囲気の中で、エジプトへの理解が深められたようでした。

国際理解教育支援プログラム
(IUESP:International Understanding
Education Support Program)
についてのお問い合わせはこちらまで:
iuesp@iyeo.or.jp



エジプトの説明をするアハメドさん



エジプトの通貨に見入る生徒たち



アラビア語で自分の名前を書いてもらう生徒たち



綱引きでところはひとつに

第3回中国スタディツアーは、7月7日から5日間にわたって34名が訪中し、米沢市関地区と友好親善地区の盟約を結ぶ吉林省琿春市三家子満族郷などを訪問し、現地の小学校での「日中友好大運動会」などを通じて、いろいろな形の交流交歓を行い、草の根交流で心を通わせ、友好親善を深めました。

関地区が中国と交流をはじめたきっかけは、平成10年度第20回「日本・中国青年親善交流」事業の中国青年代表団の地方プログラムを山形県IYEOが受け入れ、米沢市関地区で「そばうちや餅つきの体験交流」を実施したことでした。当時の団員であった薫永哉氏（現駐日本中国大使館一等書記官）から、中国北京での再会を熱心に勧められ、翌年、初めての中国スタディツアーの実施となったのです。その後、本市在住の金山智美氏（吉林省出身）のバックアップもあり、中国人留学生や中国大使館職員と地区民との交流、児童絵画の交換展示会、中国大使館訪問、中国青年代表団の受入れ等、民間レベルの交流が根付き、その交流活動をより進展させるため、平成14年度には第2回スタディツアーを実施し、吉林省琿春市三家子満族郷と米沢市関地区との間で、全国的にも珍しい友好親善地区提携盟約締結を行いました。

今回は、その友好親善地区締結5周年を記念し、「日中友好大運動会」を開催し、軽スポーツで交流を深めるものでした。

訪中団は「永遠的好朋友」と描かれたそろいのTシャツで、地元住民など約120名の参加者と一緒に、日中混合の4チームに分かれ、瓶つり、男女混合リレーや綱引きなど12競技を行い、運動会を楽しみました。最初は、どう接したらよいか戸惑うこともあったようですが、競技で肩を組んだり、手をつないだり、ふれあいを重ねるにつれ



みんなで輪投げに夢中

中国のとある郷との草の根交流 ～きっかけは、ほんの少しの思い切り～

第20回「青年の船」（昭和61年度）参加青年
第19回「日本・中国青年親善交流」事業（平成9年度）副団長
日本青年国際交流機構 北海道・東北ブロック幹事 佐藤 恵一

月日	日程
7/7	北京到着
7/8	吉林省へ移動 図們市：中朝国境見学 琿春市：三家子満族郷地区民との友好親善交歓会
7/9	日中友好大運動会 中心小学校での座談会 北京へ移動
7/10	表敬訪問コース 在中国日本大使館経済部にてODAブリーフほか 観光コース 世界遺産故宮、万里の長城見学ほか 全青年連幹部、既参加青年等との交流懇談会
7/11	帰国

参加者の表情は和らぎ、笑い声も聞かれ、言葉は片言でも、全員の心はひとつになったと感じられるひと時でした。その後は、手作り料理を囲んだ歓迎会で交流をさらに深め、座談会では、児童や保護者の方と教育や生活についての紹介や意見交換をしました。

訪問した吉林省琿春市は、延辺朝鮮族自治州にあり、北朝鮮、ロシアと国境を接しています。おりしも、北朝鮮のミサイル発射直後に中朝国境を見学することになりましたが、友好国間の国境ということもあり、報じられているような緊張感はあまり漂っていないようでした。三家子満族郷での運動会や、前日の歓迎会でも、民族衣装の女性らが歓迎し、踊りを披露してくれました。同自治州には、北朝鮮に親戚がいる人も多く、住民の約4割が朝鮮族であるので、街の看板などは中国語とハングルが併記されています。

朝鮮文化を大切に受け継ぐ朝鮮族との交流や、北朝鮮と国境を接する街をこの目で見て、中国の奥の深さを実感しつつ、異文化に触れながら、お互いが手に手を取り合う草の根交流をさらに深めていきたいと感じた訪中でありました。太謝謝了！

「ふれあい」筑前大島ツアー

大島ツアー実行委員長 第25回「日本・中国青年親善交流」事業(平成15年度) 良木 理介

第10回「国際青年育成交流」事業(モロッコ)(平成15年度) 林 奈那

IYEO設立20周年企画をきっかけに始めた大島親睦ツアーも今年で3回目の開催となった。今年のご要望に答え、全国からも参加者を迎えることとなった。主催者である福岡IYEOのメンバーも、遠くからこの企画に参加する人たちのため、最高のもてなしをしようと熱が入った。

ツアー当日、大量の買い出し荷物をかかえ大島行きフェリーに乗り込む。約20分程の船旅後、到着!福岡IYEOの大先輩であり、旧大島村の最後の村長でもあった河辺さんが変わらない笑顔で出迎えてくれた。大量の食料をリアカーにのせ、一大イベントであるバーベキュー会場へと徒歩で移動する。そう、このツアーは自炊で行われる。今年は他県からの参加者が多いということもあり、手際よく準備ができるかが不安だったが、そんな心配とは裏腹に皆それぞれ自分の仕事を見つけ、仲良くバーベキューの準備をすることができた。早速「交流」の始まりだ。IYEOの良いところは、初対面であっても誰もがすぐに打ち解けることができるところだ。それは私たちが参加した事業を通して、人と人との交流を通じ、得てきたものが多いからではないかと思う。今回もメンバーの友人、家族、村の方々など様々な方々を迎え、総勢30人強で親睦ふれあいツアーは幕を開けた。

人とのふれあいの他に、大島ツアーの魅力は自然とのふれあいだ。夕食までの間、夏みかん狩り、海水浴、釣り等皆それぞれ時間を過ごした。私は貸し自転車に乗って島内を探検して回った。強い日差しをうけながら風をきって走るのは最高に気持ちがいい。青々とした木々の力強い生命力を感じ、どこ



「ふれあい」筑前大島ツアー参加者

までも続く透き通った海の青さに感動する。大自然を前に、人間はなんてちっぽけなんだろうと思う。また、この自然環境を守っていくのも私たち人間なのだと思う。農家と漁師が多いこの大島の人たちと触れ合って、自然と共存していくことの大切さに気づく。

夜の交流会では河辺さんの大島歴史講話が行われた。大島沖合に「海の正倉院」と呼ばれる沖ノ島がある。太古より大陸、半島を結ぶ海の道標となった「神体島」だ。いにしへの国際交流の話と、ここ大島に集まったIYEOメンバー。偶然にも不思議なつながりを感じた話だった。その後、実行委員長の郷土踊りに花火企画、皆で作ったご馳走を前に、よく飲みよく語りよく笑った。ブロック大会さながらである。

参加者の積極的に楽しもうという気持ちが助けとなり、今年もまた無事終了させることができた。最後に、船着場で紙テープを持ってお別れをしてくれた河辺さん夫妻、遠くからかけつけてくれた参加者の皆さん、準備に協力してくれた福岡IYEOのメンバーに感謝の言葉を述べたい。本当にありがとうございました。今後も人とのふれあい、自然とのふれあいをテーマに大島ツアーを開催していきたい。



大島のおいしい海の幸



みんなでバーベキュー

6月24日(土)から25日(日)まで1泊2日の日程で、中国派遣団同窓会が行われました。神奈川県横浜市の景色のきれいな海辺のレストランで開催された「総会」には16団から27団までの38人が参加し、総会後の温泉施設での宿泊、2日目の横浜中華街の散策では、他年度の団員との交流も活発に行われました。

絆(きずな)を紡ぐ

第6回「青年の船」管理部
第26回「日本・中国青年親善交流」事業(平成16年)団長
井上 達夫

中国派遣団の同窓会は第17回派遣団の呼び掛けによるものが初めてで、その後は次の派遣団が順次呼びかけてほぼ毎年開かれてきました。26団が呼びかけた今回は、第10回目の同窓会でした。おかげさまで、同伴ファミリーを加え約40名となり、盛況でした。多忙な中、全国から参加いただいたことに感謝し、またすべてを手際良く運んでくれた26団の皆さん、何かと助力いただいた先輩団の方々に御礼申し上げます。

一人と一人の絆は細く弱いが、紡げば糸になる。糸を束ねれば強い紐になり、紐を撚り合わせれば太い縄になる。糸や紐や縄を使って網(ネット)を編めば、両国の関係は確固たるものになる。26団は、そのような思いを込めて団のスローガンを「絆(きずな)」としたのでした。

中国派遣団にとって縦の連携は大事なテーマです。今回の会を閉める際に、27団の桑原団長が約束された次回の同窓会に大いに期待します。



総会の開会挨拶をする
井出中国同窓会会長
(17)団団長



▲2日目、横浜中華街媽祖廟での集合写真

中华全国青年联合会 国際部
孟 洋

日本内閣府は中華全国青年联合会(简称“全国青联”)开展对日青年交流的主要渠道。自1979年全国青联与该机构的前身总理府建立友好交流关系以来,双方已开展了27轮青年代表团的互访交流,在增进中日两国青年间的相互了解,巩固两国友好关系方面发挥了积极的作用。但凡应日本内閣府邀请访问过日本的中国青年,没有人不知道日本青年国际交流机构(简称“IYEO”)及其中

中華全国青年連合会 国際部
孟 洋

内閣府と中華全国青年連合会(以下「全青連」)は両国の共同事業として行われている「日本・中国青年親善交流」事業の実施を担当している。1979年の開始以来、すでに27回の相互派遣が行われ、中日両国青年の相互理解を深め、両国間の友好関係を強固なものにするために大きな役割を果たしてきた。内閣府の招へいで訪日した経験のある中国青年であれば、日本青年国際交流機構(以下「IYEO」)と中国派遣団同窓会(以下「中国同窓会」*)の事を知らない人はいない。なぜならば、全青連

国派遣団同窓会（以下簡稱“中国同窓会”）。每逢中国青年代表团訪日时，IYEO 及中国同窓会的志愿者们总是如影随形般为中国青年提供着周到而又温馨的志愿服务，给每位訪日青年都留下美好而又深刻的印象。

2006年6月24日至25日，我有幸参加了中国同窓会的年度总会，不仅见到了很多老朋友，更亲身体会到了中国同窓会的凝聚力。中国同窓会作为 IYEO 内部的一个机构于 1999 年正式成立，由曾参加过内阁府派遣訪华团的青年组成。其主要活动包括轮流负责组织一年一度的总会，以及配合各地 IYEO 参与中国青年代表团訪日时的陪同和接待工作等。尽管大家来自不同的行业，不同的地域，同窓会的运营也存在很多实际的困难，但是共同的訪华经历将每位青年的心紧紧联系在一起，不仅同一年度的訪华团员间友情得以延续，不同年度訪华青年间联系也得到加强。看着大家为了同窓会而奔波的身影，几乎忘记他们只是利用工作之余在做志愿者。

目前，中国同窓会已经成为一个品牌，一个中日友好的象征。它为中日两国从事中日友好事业的青年提供了动力，指明了方向。作为一名普通的中国青年，我感到非常的欣慰，并决定竭尽所能为促进中日两国友好事业的发展贡献自己的微薄力量。

派遣の中国青年代表団が訪日するたびに、多くの会員が各地で心温まるもてなしで歓迎してくれ、訪日団員の心に忘れ難い思い出を残してくれるからだ。

2006年6月24日～25日、私は中国同窓会の年次総会に参加し、たくさんの古き友人と再会することができた。また中国同窓会の結束力を、身をもって感じることもできた。中国同窓会は、1999年に発足した内閣府中国派遣団の既参加青年で構成されているIYEOの中の一組織である。その主な活動は年に一度の総会を派遣団持ち回りで幹事役となって開催したり、中国青年の訪日時に都内視察の同行や地方プログラムの受け入れをしたりするなど、各都道府県IYEOと協力して積極的に活動に取り組んでいる。中国同窓会のメンバーは様々な職業、様々な地域から集まっており、同窓会の運営は容易なものではないが、訪中の経験がメンバーを結束させ、同年度の訪中メンバーのつながりだけではなく、年度を越えた縦のつながりも強化する役割を果たしている。同窓会のために奔走している日本青年の姿に、私は暫し彼らが本業の合間をぬってボランティアとして活動しているのだということをお忘れさせられた。

現在、中国同窓会は中日友好、青年育成を目的とする「日本・中国青年親善交流」事業の成果の具体的な表れの1つだといえる。そして中日両国の友好事業に携わっている青年達にエネルギーを与えるだけではなく、明るい未来を示してくれた。一人の中国青年として嬉しく思うと同時に、これからも微力ながら中日友好事業のためにより一層の努力をしていこうと心に決めた。

※1:「中国派遣団同窓会」は、昭和54年度に始まった「日本・中国青年親善交流」事業に参加した青年が設立した日本青年国際交流機構（IYEO）内のグループです。

総会開催の実績

開催年	場 所	開催年	場 所
平成7年度	栃木県（鬼怒川温泉）	平成12年度	兵庫県（神戸市）
平成8年度	静岡県（伊東温泉）	平成13年度	東京都（渋谷区）
平成9年度	石川県（金沢市）	平成16年度	三重県（鳥羽市）
平成10年度	京都府（京都市）	平成17年度	東京都（新宿区）
平成11年度	静岡県（浜松市）	平成18年度	神奈川県（横浜市）



平成18年度都道府県IYEO役員研修

IYEO都道府県役員研修とは、日本青年国際交流機構平成18年度活動計画の1つとして、都道府県IYEOの役員及び会員の代表者を対象に実施する実務研修です。都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指す人材育成の一環として行っています。

IYEOの3つの活動方針をふまえ、この研修は、まず、自己研鑽の場であり、役員として必要な考え方やノウハウを身につけることを目的としています。第2に、地域社会における国際交流活動の推進をめざします。第3に、社会貢献活動への取組について考え、実行に向けて共に新たな第1歩を踏み出す場と位置づけられています。

今回のプログラムは、運営・実行委員を中心に運営され、以下の構成としました。

- ①INPUT: 考え方・概念を学ぶための講演
- ②OUTPUT: 自分の状況に当てはめ、自分自身で考えるワークショップ
- ③INPUT: 具体的なノウハウを身につける分科会
(いろいろな会議の仕方、事業の組み立て方)
- ④OUTCOME: 学んだ知識を自分が所属するIYEOに当てはめ、
活用の仕方を考える



▲②OUTPUT(ワークショップの様子)

これら4つの段階を経て、「IYEO活動の意義の認識と、自分たちの可能性の具体化」をねらいました。



ねらい
「IYEO活動の意義の認識と
自分たちの可能性の具体化」

◆スケジュール◆

日程：6月17日(土)～18日(日) (1泊2日)
開催地：東京 国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者：35都道府県より50名、本部役員20名、運営・実行委員9名

6月17日(土)

11:30 受付
11:45～13:00 ランチパーティー(アイスブレイキング)
13:15～13:45 オリエンテーション
14:00～15:15 ①INPUT 講演「IYEOのNPOとしての役割」
15:30～17:15 ②OUTPUT ワークショップ
18:15～19:00 夕食
19:00～20:45 ③INPUT 分科会Ⅰ
21:30～23:00 懇親会

6月18日(日)

08:45～10:45 ④OUTCOME 分科会Ⅱ
11:00～12:00 全体会、ふりかえり、閉会式

◆分科会の紹介◆

分科会1「プログラムの組み立て方」

国際交流プログラムや報告会、説明会など、プログラムを組み立てる際の工夫やより良いプログラム作りについて

分科会2「組織活性化のノウハウ」

ファシリテーションや組織内のコミュニケーションの方法等、組織の活性化に必要な知識について

分科会3「実務面スキルアップ」

広報活動をキーワードとして、組織活動の実務を取り扱うための注意点や工夫について

◆ 参加者コメント ◆

福岡県青年国際交流機構 事業部長 緒方 泰士

研修では、まず大橋副会長による「IYEOのNPOとしての役割」の講演があり、ワークショップに参加した後、3つのグループに分かれて分科会が行われました。私は分科会②「組織活性化のノウハウ」を選択しました。

分科会で特に印象深かったのが、「リーダーに必要なもの」という研修でした。リーダーに最も求められるものは「発信する力」です。情報や意見をメンバー全員にしっかりと発信する力が必要とされます。そして、コミュニケーション能力も大切です。コミュニケーションには基本が4つあります。①笑顔、②相槌(言葉でのあいづち)、③アイ・コンタクト、④うなずきです。

役員は各都道府県のIYEOのリーダーとして、また各県のNPO組織のリーダーとして、組織をリードしなければなりません。この研修に参加することでモチベーションがあがり、気持ちがとても前向きになりました。学んだことをいかして、これからも福岡県IYEOの役員としての務めを果たしていきたいと思います。すばらしい研修に参加させていただき、ありがとうございました。



▲③INPUT (分科会1の様子)



▲④OUTCOME (分科会2の様子)
参加者コメントの筆者:右端



▲④OUTCOME (分科会3の様子)

IYEOさんの細胞(体のパーツ)である私たちの想い

ワークショップでは、IYEOという組織を自分自身に置き換え、IYEOの組織としての存在意義、使命、価値観等について考えました。そこからIYEO会員ひとりひとりが、IYEOという組織において、かけがえのない存在(細胞)であることを認識し、IYEOとは何であるかを自分自身で理解して、他の人に説明するためのワークショップも取り入れました。最後に、IYEOに対するそれぞれの想いをまとめましたので、ここにご紹介します。

- ・ 平和への橋渡し
- ・ 日本を代表する顔となれ!
- ・ 大好き!
- ・ 国際交流の種をまき、育て、花を咲かせ、また種をまく
- ・ Inspire the world!
- ・ 自分を見つけ、見つめ直せる場所であり続けてほしい
- ・ よき港であるようによき港になるように
- ・ 恩返し
- ・ 世界規模の仲間づくり
- ・ 国際派アルカイダ:アメバネットワーク
- ・ Love & Peace
- ・ パワー・ステーション
- ・ 個人の力をまとめ、社会に貢献する団体であり続ける
- ・ IYEOのことを伝えるのって難しい
...でもみんなに伝えたい
- ・ 世界中の人がつながるネットワークになりたい
- ・ もっと愛してあげなきゃあかんって
- ・ これから何ができるか楽しみです



- ・ 人々の心と心を通わせる活動を目指したい
 - ・ IYEOの活性化
 - ・ チームとハートで!
- ・ 世界のリーダーを育てるネットワーク
 - ・ 私の中のひとつの柱
 - ・ 情熱
 - ・ 人材発掘と人材育成
 - ・ IYEOとは母である
 - ・ 一生お付き合いしたい
- ・ 活発な細胞の一部に成長したい
 - ・ もっと楽しく、もっと刺激的に
 - ・ 人材育成を目指して
 - ・ 日常の中の非日常
 - ・ 広がっていく可能性
 - ・ 愛はいいよ(IYEO)
- ・ 国際交流事業の港として、一步一步、
みんなで成長していきたい

国連の記念日

国際識字デー (International Literacy Day) 9月8日

1965年のこの日、イランのパーレビー国王が一日の軍事費を識字教育に回す提案をしたことを記念しています。
1966年に国連が国際デーとして決めました。

9月・10月の記念日

9月	8日	国際識字デー
	21日	国際平和デー
10月	1日	国際高齢者デー
	16日	世界食糧デー
	24日	国連デー
	24日～30日	軍縮週間

(計16日設定のうち6日を抜粋)

「世界寺子屋運動」 ～識字教育支援活動

世界には学校に行けない子どもが、1億400万人います。そして学校に行けず大人になり、文字の読み書きができない人が7億8500万人もいます。世界寺子屋運動は、このような子どもたちや大人が「学びの場=寺子屋」で読み書きや算数を学べるように、教育の機会を提供する運動です。国連はUNESCOの主導により「国連識字の10年」(2003年～2013年)を定め、すべての子どもたちが学校に通えるようになることや、成人女性の識字率が向上することを目標としています。



▲アフガニスタン・チャラシアブでは特に女性のプログラムが盛ん

世界寺子屋運動の主な支援先は、識字教育をおこなっている発展途上国の民間団体(NGO)や地方行政機関(教育委員会)です。

日本ユネスコ協会連盟では、「寺子屋をつくりたい」「支援をしてほしい」といったニーズをもとに調査し、慎重に支援団体を決定しています。また、支援に頼らないプロジェクトの自主的な運営を目標としていきます。1989年～2005年の15年間に約75万人が寺子屋で学びました。

国際理解教育 ユネスコ運動D-project* ～「世界寺子屋運動」小中高学びのプログラム～

2003年度より国際理解教育の展開として、小・中・高校のコンピューターを用いた授業の中で、児童・生徒が「世界寺子屋運動」について学び、書きそんじハガキ回収や募金協力と呼びかけるリーフレットを制作しています。各参加校の代表作品の中からコンテストを実施し、最優秀作品は「書きそんじハガキキャンペーン」などで実際に全国で配布されます。

*:D-projectのDは、「デジタル」&「デザイン」。コンピューターなどのデジタル機器に振り回されることなく、子どもの学びを見つめて授業をデザインしていこうという全国の教育現場の先生によるプロジェクトです。



▲2004年度の最優秀作品 (高校生による)

スタディツアー

世界寺子屋運動の支援先を直接訪れ、「支援のあり方」「現地のニーズ」などをじかに体験するツアーです。支援先での体験を、世界寺子屋運動への協力活動そのものの活性化につなげていくことを目的としています。



▲ベトナム・マリフォー村にて

世界寺子屋運動への協力

「ひと月約500円でひとりの子どもが、学校に通えます」
募金方法：インターネット募金・自動引落募金・書きそんじハガキで募金・ユネスコカードの募金等

詳細は(社)日本ユネスコ協会連盟までご連絡ください。
TEL:03-5424-1121 FAX:03-5424-1126
<http://www.unesco.jp/>

「関東ブロック大会@千葉」のご案内

10月28日(土)29日(日)に関東ブロック大会を開催します。

【テーマ】「環境問題を通して国際関係を覗いてみよう」
今回はワークショップ等を通して参加者のみなさんと一緒に作り上げていこうと考えています。

【日程】10月28日(土)～29日(日)

【会場】さわやかちば県民プラザ(千葉県柏市)

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/clis/>)

【アクセス】・JR常磐線/東武野田線 柏駅下車
柏駅西口バスターミナル2番乗場より東武バス
「柏の葉公園経由 国立ガンセンター」行き
または「柏の葉公園」行き(約20分)
柏の葉公園 バス停下車(徒歩1分)

・つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅下車
柏の葉キャンパス駅西口バスターミナル
1番乗場より東武バス
「柏の葉公園循環」または「国立ガンセンター
経由 江戸川台駅東口」行き(約10分)
(柏の葉公園循環) 柏の葉公園 バス停下車(徒歩1分)

【参加費(予定)】大人10,000円、子ども8,000円

詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.iyeo.or.jp/chiba>

【問合せ先】千葉IYEO chiba_iyeo@hotmail.com
申し込み開始は9月初旬を予定しています。詳細はHPや
その他IYEO関連のメール等をご覧ください。

変更になりました

マクロコズム2006年5月号(vol.70)P.12でお知らせした「平成18年度国際交流を考える集い(ブロック大会)」の東海ブロック大会の日程(案)に変更がありましたのでお伝えします。

変更前 9月2日～3日 → 変更後 平成19年2月3日～4日

お知らせ!

"第10回青年の船" 30周年記念の集い

晴海の埠頭・昭和51年8月9日から30年。
全員が齡半世紀を過ぎ、それぞれ厳しい幾星霜
たまにほっとしませんか。思い出話はきっと楽しいですよ!!!

と き：2006年9月30日(土)～10月1日(日)

参加費：1人2万円

ところ：東京ベイ有明ワシントンホテル

幹 事：山内真弓、瀧口京子、鈴木好二、

東京都江東区有明3-1-28

本田直、吉田元治

TEL: 03-5564-0111

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第22回全国大会 第13回青少年国際交流全国大会フォーラム

香川大会

12月の全国大会には、一人でも多くの方に参加してもらおうと、来て絶対に損をさせないプログラム作りに励んでいます。香川のいいところ取りの内容を、みんなとワイワイ楽しみながら体験し、地域での活動やネットワーク作りに役立てていただけるものにしようと準備中ですので、どうぞお楽しみに!!

出会い、ふれあい、分かち合い 世界へ漕ぎ出せ! シュラシュシュ

1. 主催 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構
(財)青少年国際交流推進センター
香川県青年国際交流機構

2. 主管 日本青年国際交流機構第22回全国大会香川実行委員会

3. 期日 平成18年12月2日(土)～3日(日)

4. 会場 湯元ことひら温泉琴参閣

〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町685-11
TEL:(0877) 75-1000

5. 参加費 ①宿泊一般(中学生以上)／1名……16,000円

②宿泊一般(シングル)／1名……20,000円

③小学生以下宿泊／1名……11,000円

④非宿泊一般／1名……8,500円

⑤非宿泊小学生以下／1名……5,500円

⑥基調講演&分科会のみ参加者／1名……1,000円

6. 参加申込み方法 振込用紙を切り取り、必要事項を記入の上、参加費のみお振込み下さい。(注)宿泊タイプには、「5.参加費」の番号(①～⑥)をご記入下さい。

7. 申込み締切日 11月13日(月)振込み日有効

8. 参加申込み先・問合せ先 〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10

香川県総務部 青少年・男女共同参画課内
香川県青年国際交流機構事務局

菅圭介、滝川祐子

TEL:(087) 882-8909 FAX兼(菅)／

(087) 835-2904 FAX兼(滝川)

E-mail:kagawa@iyeo.or.jp

http://www.iyeo.or.jp/kagawa/

9. プログラム

第1日目 12月2日(土)

12:30～13:30 受付

13:30～14:00 開会式

14:00～15:30 基調講演

「共生社会について考える

～少林寺拳法の目的は「人づくり」にあり!～」

講師 少林寺拳法グループ総裁 宗 由貴氏

16:00～17:30 テーマ別分科会

17:30～18:15 チェックイン及び休憩

18:15～18:30 写真撮影

18:30～21:00 懇親会

第2日目 12月3日(日)

～09:00 朝食及びチェックアウト

09:00～10:00 内閣府青年国際交流事業参加報告

10:00～10:30 閉会式

10:30～ 解散/地域理解研修(オプション)



* 基調講演 講師 少林寺拳法グループ総裁 宗 由貴氏

今や世界33カ国に活動を展開する少林寺拳法の総本山が、香川県にあるのをご存じですか? 少林寺拳法の本来の目的は「人づくり」にあるという、少林寺拳法グループ総裁 宗由貴氏に、少林寺拳法を通じての世界に輪を広げる秘訣を伝授いただきます。

〈分科会内容〉

①「世界へ漕ぎ出せ!国際人・空海のコミュニケーション力」

唐に渡った空海は何を見、何を感じたのか?空海の目指した道とは?讃岐が誇る国際人・空海が、いかにして異国の地で人々とふれあい、目的を成し遂げたのかについて探ります。

②「古来からの地域ボランティア「お接待」とは?」

古くからお遍路さんに対して行われ、すっかり四国の地に定着した地域ボランティア活動とも言えるお接待。ボランティア活動に一番大切なものとは…? お接待について学びながら、もう一度考えてみませんか?

③「地域文化財理解講座 in 金丸座」

現存する日本最古の芝居小屋へ。イギリスのシェークスピアゆかりの「グローブ座」との国際交流プロジェクトも展開している金丸座を見学し、古きを守りつつ新しいことにも取り組む姿勢を学びましょう。唯一、会場から飛び出してのプログラムです!

④「農村歌舞伎鑑賞講座～かぶいて郷土愛を育もう～」

地元中学校の郷土研究部による、農村歌舞伎の実演を鑑賞し、郷土文化の継承、郷土を知ることの意義について学びます。限取りや見得の切り方など、農村歌舞伎の体験を通じて中学生とのふれあいも!

⑤「心と体にやさしい護身術 少林寺拳法体験講座」

基調講演で少林寺拳法について学んだ後、実際に体験してみませんか? 簡単な護身術を学び、武道を通じて日本の心に触れましょう!

⑥「IYEO会員のネットワークづくり“私たちができる国際協力について考える～活動事例紹介と情報交換～”」

「私たちにもできるかも?」、「このアイデアいいね!」と思えるような、各地のIYEOの国際協力活動事例を紹介し、意見交換を行いながら、会員間のネットワークづくりにも役立つ場をご提供します。

〈地域理解研修(オプション)の御案内〉

①「中野うどん学校にてうどん作り体験」:

本場の職人さんが指導してくれ、自分で打ったうどんを釜揚げうどんにして、その場で試食。所要約1時間。材料、作り方などを図解した秘伝帳、麺棒、卒業証書ももらえますよ!

②「金陵の郷(酒造)見学」:

昔ながらの酒造で、酒造道具や酒造りの有様などを見学し、お酒を通じて語らしましょう!きき酒はもちろん、自分だけのオリジナルラベルのボトルにお酒を入れてお土産にもできます。

③「金刀比羅宮参拝」:

琴平まで来たからには、海の神様こんびらさん参り!「世界青年の船」事業や「東南アジア青年の船」事業に参加される方の安全祈願を。

④「うどん屋巡りツアー」:

うどんを食べずしては帰れない!という方のための、おいしいうどん屋さんのはしごツアー。うどんの予算は1,000円で十分。(交通手段は参加人数に応じて対応)





～讃岐まんてが通信～

香川県青年国際交流機構 井川 美紀

今回は、香川県の観光名所などをご紹介します。

ここ数年、注目されているのが、セカチューこと「世界の中心で、愛をさけぶ」ですっかり有名になった「庵治町」です。以前はちょっと寂しい石工と漁師の町といった感じだった場所が、映画のロケ地となり、映画の大ヒットによって、あっという間に純愛の聖地となりました。撮影後に一度取り壊された写真館のセットも復元されたりして、今でも全国からたくさんのカップルが訪れ、人気は衰えていないようです。セカチュー効果で、いったいどのくらい香川県は潤ったことでしょうか？

その他有名な観光地と言えば、「栗林(りつりん)公園」でしょうか。江戸時代初期の回遊式大名庭園で、四季折々の美しさを堪能できます。香川県民は、日本三名園に負けず

劣らず素晴らしいと自負しているはず！（少なくとも、私はそう思っています！）こちらセカチューの行定勲監督が、「春の雪」のロケ地として使っていますが、ただ、ここはカップルで行くと別れるというジンクスがありますので、ご注意下さい…。（そういえば、こんびらさんもそうでした。）

最近、香川県は映画のロケ地としてよく使われています。今年では、織田裕二主演の「県庁の星」や、最新作としては以前にもご紹介した「UDON」が公開されましたね。皆さん、もうご覧になりましたか？これらを見て、香川県に興味を持ち、全国大会にたくさん来ていただけたらなあと思います。

香川県の観光地等について知りたい方は、こちらをご参照下さい。 <http://www.sanuki.com/index.php>
なお、香川IYEOホームページ

<http://www.iyeo.or.jp/kagawa/>もご覧下さい！

ジャワ島中部地震災害救援金募集の報告

マクロコズムvol.71でお知らせした「ジャワ島中部地震災害救援金」で集められた寄付金は4万2,640円でした。日本赤十字社を通じて、役立てていただくことにしました。御協力ありがとうございました。

今月号の表紙

第2回グローバル・フォト・コンテスト
(財)青少年国際交流推進センター理事長賞
「道の駅」マラウィ

安達 陽子 SWY14 (2001), Japan

東アフリカのマラウィ共和国、ジェンダという町の大きな道の駅。トマトやたまねぎを持ったおばちゃんたちが「買っていき、買っていき」と寄ってきます。首都に行く人も、首都から家に帰る人も、おみやげはここで買います。

次回のグローバル・フォト・コンテストのテーマは「Smile & Laughter」です。詳細は11月号でお知らせします。お楽しみに！



編集後記

マクロコズム2004年11月号から2005年9月号に掲載された「ターニングポイント」に加筆して一冊の本にまとめた書籍版「ターニングポイント」はもうご覧になりましたか。在庫がなくなり次第、頒布を終了しますので、ぜひ、ご一読ください。ただ今、第二冊目も準備中です。(ふ)

<http://www.iyeo.or.jp/ja/info/turningpoint/index.html>

MACROCOSM 9月号 Vol.72

2006年9月1日発行(隔月発行)

編集 マクロコズム編集委員会

発行 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centrye.org> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 220円(本体210円)

印刷所 株式会社 長正社

TEL:03-3531-1369 FAX:03-3531-3235

since
1884
Pioneer Of
Cruise



「クルーズイヤー2006」
の公式スポンサーとして
クルーズを盛り上げる
イベント・キャンペーン
に協賛しています。

言葉めれば、新しい風。
http://cruise2006.jp



にっぽん丸



錆を落とす者も、ペンキを塗る者も、
だれもが大きな誇りをもっている。

にっぽん丸 甲板手 稲葉政行

水道の蛇口をひねれば水が出てくるように、船体は常に白くなくてはならない。また、いさかなりとも不具合が見つければ、お客さまの目に届かぬうちにメンテナンスを行うことが必要だ。そんな“あたりまえ”を、滞りなく行うのが甲板部の仕事。19歳の時にこの仕事に就いて以来、これまで船乗は華やかな表舞台に一度として立つことなく過ごしてきた。まだ明けきらぬ朝もやの中でデッキの手すりの潮を拭き、日のあるうちは錆を落とし、ペンキを塗る。にっぽん丸を陰で支える毎日だった。「それは、これからだって変わりません。ずっと裏方。何年ににっぽん丸で働いていても、お客さまから名前を覚えていただくこともないでしょう」。しかし、見親的になったことなど一度もないという。「だって私らは自分の仕事に誇りをもっているから」。多くを語らぬ稲葉だからこそ、その言葉の一つひとつに重みがある。大海原に出れば頼るもののない船において“あたりまえ”であることがいかに大変かを教えてくれた甲板手・稲葉政行。強くて頼もしい海の男であった。

もてなしにも、品質があります。にっぽん丸の船旅

名瀬と味覚 雲仙・下関・神戸クルーズ	新春の九州・瀬戸内海クルーズ 神戸発着	NIPPON MARU	oasis にっぽん丸
東京→雲仙小浜→下関→神戸→東京 2006年12月6日(水)～12月12日(火) 180,000円	神戸→別府→博多→広島→神戸 2007年1月7日(日)～1月11日(木) 165,000円		横浜→(伊豆諸島周遊)→横浜 2007年3月9日(金)～3月11日(日) 98,800円
春の松山・屋久島クルーズ 博多発着	南洋の楽園クルーズ 横浜発着37日間		2008年世界一周クルーズ 横浜・神戸発着
博多→松山→屋久島→博多 2007年3月21日(水・祝)～3月24日(土) 120,000円	フィジー、タヒチ、ハワイなど太平洋の8つの島々を探訪 2007年5月9日(水)～6月14日(木) 980,000円		横浜・神戸発着(各101日間) 海外17カ国24港 2008年4月7日(月)～7月17日(木) 2,980,000円

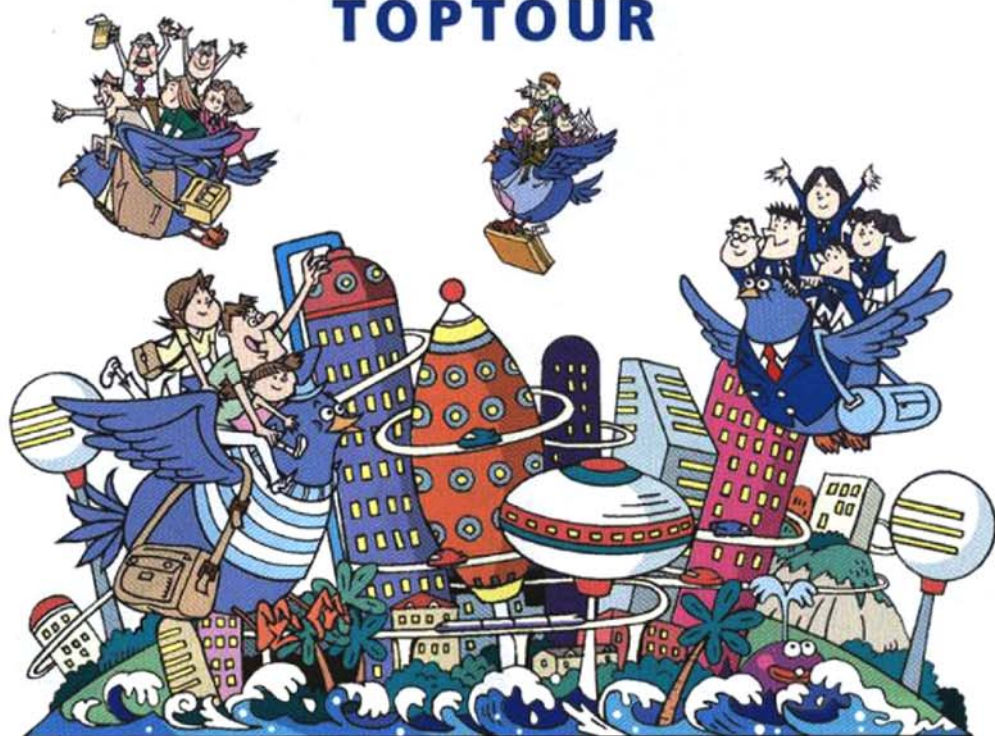
そのほかのクルーズもご用意しております。表示の代金はステートルームC1室を2名でご利用の場合の大人お一人様・国内クルーズは消費税込の旅行代金です。*:各種のコースがございます。

商船三井客船 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三井物産ビル5F MOPASは商船三井客船の登録です。 お問合わせは、各クルーズ取扱旅行会社 またはMOPASクルーズデスクへ。 クルーズデスクフリーダイヤル ☎0120-791-211 <http://www.mopas.co.jp>

The 50th Anniversary



TOPTOUR



東急観光株式会社は創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋

旅は人と自然が触れ合う地球の扉

旅は人と歴史をつなぐ時空間のトンネル

そんな旅を創造し、提案する[旅行インテリジェンス企業]

それがトップツアー株式会社

東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして新たな第二幕のステージに立ちました。

みなさまから愛される企業をめざして……

人が行き、人が集う、それが旅。

マクロコズム

2006年9月号

通巻七十二号隔月発行

定価三二〇円(本体二一〇円)

編集協力

内閣府政策統括官
(共生社会政策担当)
日本青年国際交流機構



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

国土交通大臣登録旅行業第38号 © 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号 <http://www.toptour.co.jp> <http://toptour.jp>